

〈取材案内〉

2025年デフリンピック 大会エンブレム 都内中高生の投票で決定！

9月3日（日）取材のご案内

（東京都パラスポーツトレーニングセンター）

2025年に東京で開かれるデフリンピックの大会エンブレムが決定します。

大会エンブレムは、本年5月10日（水）に開催したオリエンテーション以降、筑波技術大学（※）の学生がデザイン案を作成してきました。今回、デザイン最終候補案から都内中高生たちが投票を行い、大会エンブレムのデザインを決定します。

中高生たちが選び、大会エンブレムのお披露目となるイベント「2025年デフリンピック 大会エンブレムをえらぼう！」の開催について、下記のとおりお知らせいたします。

（※）筑波技術大学について：国内唯一の聴覚障害者・視覚障害者のための国立大学。エンブレムは、総合デザイン学科を中心とした産業技術学部の学生がデザインしました。

記

1 大会エンブレムのデザイン最終候補案について

下記のデザイン最終候補案から、9月3日に投票により決定します。

（ア）



〈制作者のコメント〉

- ・道路交通法が定める聴覚障害者標識のデザインにも使われている「蝶々」をモチーフとした。
- ・蝶々が幼虫から成虫に成長し、美しく空高く舞い上がるように、デフスポーツを通して人々と社会を繋ぐことや、共生社会の実現、デフリンピックの成功、デフスポーツの発展と飛躍を願う意味を込めてデザインした。
- ・蝶々の羽はデフのイメージのひとつである「手(手話)」になっている。また、日本の手話表現で「蝶々」を意味する動作で表現。
- ・「ソメイヨシノ」は日本で最も有名な桜であり、東京都のシンボルの花。また、蝶々との親和性が高い。蝶々の本体が「人間のシルエット」にも見えるように表現した。

（イ）



〈制作者のコメント〉

- ・人々の繋がりを意味する「輪」をテーマとした。
- ・デザインでは、デフコミュニティの代表的なシンボルである「手」を表し、デフリンピックを通して競技と話題に触れ、互いの交流やコミュニティが「輪」のように繋がった先には、新たな未来の花が咲いていくことを表現。花は桜の花弁をモチーフとした。

（ウ）



〈制作者のコメント〉

- ・色々な人にデフリンピックに参加したいと思ってもらえるようなデザイン、デフリンピックに参加して良かったと思ってもらえるようなデザイン、また、多くの人に希望や勇気を与えられるようなデザインを納得いくまでじっくり考え、愛を込めて作成した。
- ・日本のシンボルとして広く親しまれている「富士山」や、「サクラの花びら」、平和の輪や絆の輪を表す「円」、デフは視覚でより多くの情報を読み取っていることを表す「目」などを用い、各パーツが違った形をしているが、それぞれの良さがあるという多様性を表現した。

2 イベントについて

(1) 名称

2025年デフリンピック 大会エンブレムをえらぼう！～中高生によるエンブレムデザイン投票グループワーク・発表イベント～

(2) 日程

令和5年9月3日（日曜日）13時30分から16時まで

(3) 場所

東京都パラスポーツトレーニングセンター（東京都調布市西町 376 番 3）

(4) 内容

- ・デファスリートトーク
- ・エンブレムデザイン案を制作した学生によるプレゼン
- ・中高生同士のグループワーク（意見交換）
- ・投票、デザイン決定・発表、フォトセッション

(5) 出演者

○デファスリート

- ・中野 洸介 選手（デフリンピック ブラジル大会出場（陸上競技・マラソン））
- ・岩渕 亜依 選手（デフリンピック ブラジル大会出場（デフサッカー））

○デザイン案を制作した筑波技術大学の学生の皆さん

○一般財団法人全日本ろうあ連盟理事長 石野 富志三郎

○東京都生活文化スポーツ局長 横山英樹

(6) 投票参加者

東京都内に在住又は在学の中学生及び高校生

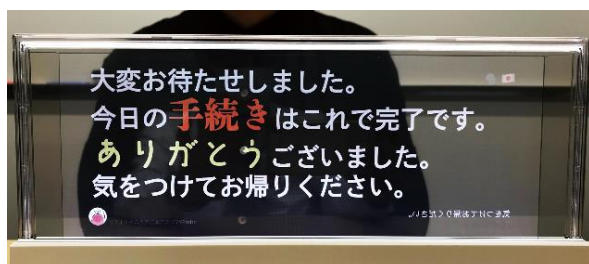
(7) ユニバーサルコミュニケーション技術について

都では、「いつでも・どこでも・誰とでも」つながる、ユニバーサルコミュニケーションの促進に取り組んでいます。本イベントでは、イベント参加者に以下の音声等を文字化するユニバーサルコミュニケーション技術を体験できる場を提供します。イベント終了後は、メディアの方にこれらの技術を体験していただくことが可能です。

大日本印刷株式会社

「透明スクリーン感情字幕（仮称）」

音声またはキーボードで入力した文字を透明ディスプレイ上にテキストで表示。多言語翻訳も可能。また、「ありがとう」など事前に登録されたキーワードに反応し、色やフォントを変え強調して表示することも可能。



ピクシーダストテクノロジーズ

「VUEVO（ビューボ）」

会議や雑談の場で専用マイクが声の方向を認識、ディスプレイで声の方向ごとにテキストを表示。誰の発言なのかを視覚化することで、コミュニケーションギャップを解消。生成AIによるリアルタイム要約も可能。



【問合せ先】

・デフリンピックに関すること

一般財団法人全日本ろうあ連盟 デフリンピック運営委員会

e-mail : dp2025@jfd.or.jp

・9月3日のイベントに関すること

東京都生活文化スポーツ局国際スポーツ事業部事業調整第二課

電話 : 03-5388-3691

・デザイン最終候補案やデザインした学生に関すること

国立大学法人筑波技術大学 大学戦略課

電話 : 029-858-9383

(ア) <制作者のコメント>

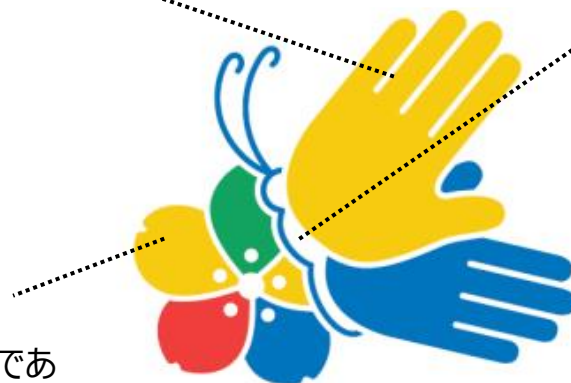
- ・道路交通法が定める聴覚障害者標識のデザインにも使われている「蝶々」をモチーフとした。
- ・蝶々が幼虫から成虫に成長し、美しく空高く舞い上がるように、デフスポーツを通して人々と社会を繋ぐことや、共生社会の実現、デフリンピックの成功、デフスポーツの発展と飛躍を願う意味を込めてデザインした。
- ・蝶々の羽はデフのイメージのひとつである「手(手話)」になっている。また、日本の手話表現で「蝶々」を意味する動作で表現。
- ・「ソメイヨシノ」は日本で最も有名な桜であり、東京都のシンボルの花。また、蝶々との親和性が高い。
- ・蝶々の本体が「人間のシルエット」にも見えるように表現。

【蝶々】

- ・蝶々の羽を、デフのイメージのひとつである「手(手話)」で表現
- ・手の形が日本の手話表現で「蝶々」を意味する動作になっている
- ・日本の手話文化やデフ、蝶々、躍動感などを表現

【ソメイヨシノ】

ソメイヨシノは、日本で最も有名な桜であり、東京都のシンボルの花
また、蝶々との親和性が高い



TOKYO 2025
25TH SUMMER DEAFLYMPICS

【人間のシルエット】

蝶々の本体が「人間のシルエット」にも見えるように表現

【色】

- ・4色の比率の中で、未来とスポーツをイメージした「黄色」と「青色」をメインに使用
- ・黄色は、共生社会の実現やデフスポーツの発展などの未来を表現
- ・青色は、スポーツの動作(動き)やアスリートの汗(水)を表現

(イ) <制作者のコメント>

- ・人々の繋がりを意味する「輪」をテーマとした。
- ・デザインでは、デフコミュニティの代表的なシンボルである「手」を表し、デフリンピックを通して競技と話題に触れ、互いの交流やコミュニティが「輪」のように繋がった先には、新たな未来の花が咲いていくことを表現。花は桜の花弁をモチーフとした。

①「手」

- ・デフコミュニティの代表的なシンボルである「手」を表現
- ・デフリンピックを通して、競技と話題に「触れて」欲しいという想いを込めた。

②「輪」

デフリンピックに「触れた」ことで、少しずつお互いに交流やコミュニティが「輪」のように繋がっていくことを表現



③「花」

- ・輪が広がった先には、「新たな未来の花が咲いていく」という意味を込めた。
- ・桜の花弁をモチーフ

④「色」

世界中から沢山人々が集まる大会なので、赤・黄・青・緑の色で多様性を表現

(ウ)

<制作者のコメント>

- ・色々な人にデフリンピックに参加したいと思ってもらえるようなデザイン、デフリンピックに参加して良かったと思ってもらえるようなデザイン、また、多くの人に希望や勇気を与えられるようなデザインを納得いくまでじっくり考え、愛を込めて作成した。
- ・日本のシンボルとして広く親しまれている「富士山」や、「サクラの花びら」、平和の輪や絆の輪を表す「円」、デフは視覚でより多くの情報を読み取っていることを表す「目」などを用い、各パーツが違った形をしているが、それぞれの良さがあるという多様性を表現した。

【富士山】

日本の最高峰、日本のシンボル
広く親しまれている富士山を表現

【サクラの花びら】

日本・東京の代表的な花

【円】

平和の輪、絆の輪
(富士山に登る)太陽

【目 (サクラの花びら+円)】

デフは視覚で、より多くの情報を読み取っていることを表現

パワー

楽しむ心

スピード

【赤・青・緑・黄】

ICSDの色 (国際ろう者スポーツ委員会)
世界のデフスポーツを代表する組織

【多様性】

みんな違った形をしているが、
それぞれ違った良さを持っている

25TH SUMMER DEAFLYMPICS
TOKYO 2025

燃える心・スピード・パワー・楽しむ心
↓↓↓
デフアスリート

<取材方法>

(1) 取材申請

取材をご希望の方は、**8月30日(水曜日)17時**までに下記メールアドレスまでお申し込みください。

(申込先のメールアドレス) 東京都生活文化スポーツ局国際スポーツ事業部事業調整第二課

S1120906@section.metro.tokyo.jp

※QRコードから申込メールが作成できます。



【記載事項】

メール件名は『【取材申込】デフ「エンブレム投票イベント」』とし、貴社名、貴媒体(番組)名、ご担当者名、当日のご連絡先、取材人数(ムービー〇台〇名、スチール〇台〇名、ペン〇名、計〇名)、掲載・放送のご予定を記載いただきますようお願いいたします。

(2) 取材に関する諸注意

- ・取材受付は、**12時00分から13時00分まで**、味の素スタジアム前ペDESTリアンデッキ下にて行います。
- ・取材の際は、自社腕章を必ず着用してください。
- ・会場スペースの関係上、ムービーカメラは1系列局につき1台まで、スチールカメラは1社につき1台までとします。
- ・カメラ位置は受付順となります。電源、音声ライン、カメラ台はありません。
- ・お車でお越しの際は、周辺の有料駐車場を御利用ください。
- ・手話通訳が入ります。通訳音源の著作権の関係上、通訳者の発言音声をそのまま報道等に使用することはご遠慮ください。
- ・会場内では、お静かにしていただくようお願いいたします。取材以外の行動はお控えください。
- ・当日は、職員の指示に従ってください。指示に従っていただけない場合、取材をお断りする場合がございます。

(3) 取材受付場所

味の素スタジアム前ペDESTリアンデッキ下
(階段下)

★ プレス受付

※ペDESTリアンデッキに上がり、スタッフにお声がけください。

受付にご案内します。

※受付で身分を証明できるもの(社員証等)を

お一人ずつ御提示ください。



<参考>

○エンブレム制作の考え方

(2023年3月30日一般財団法人全日本ろうあ連盟デフリンピック準備室プレスリリースより)

URL : <https://www.jfd.or.jp/2023/03/30/pid25126>

(1) きこえない人を制作の主役に

- 筑波技術大学の総合デザイン学科を中心とした産業技術学部の学生がエンブレムのデザイン案を複数作成

(2) 次代を担う若者や子供たちの参画

- グループワークの参加者(100名程度)を都内中高校生から募集
- グループワークで都内中高校生(ろう学校を含む)が、デザインを選考し、決定

(3) きこえない人ときこえる人が協働する

- 目指すべき共生社会を体現する作成プロセスとする。
- 制作過程において、手話言語通訳に加え、デジタル技術を活用しコミュニケーションを図る。

○エンブレムデザインの基本ルール

エンブレムには、国際ろう者スポーツ委員会(ICSD)ロゴを表す4つの色(赤・青・黄・緑)を入れることとしています。